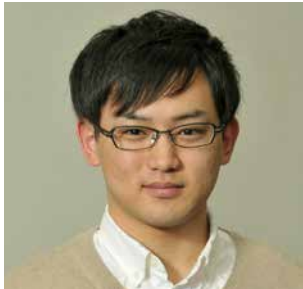


中央大学 経済学部

経済学部では、経済学およびその関連領域にかかわる教育研究を行い、国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有した人材を養成します。卒業後、社会の様々な分野において、その学識と能力を発揮していきます。



■大学生
星野智 さん



■先生
武田勝 先生



■卒業生
山岸和樹 さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

経済学部の特長を教えてください。



■先生

経済学部では「冷静な思考力と温かい心をもった良識ある経済人を養成する」ことを目標にしています。この目標を達成するため、100名前後の様々な分野の専門性を持った教員を擁し、学生個々の学びたい分野に対応できる態勢を整えています。

カリキュラムの面では、4つの学科それぞれに「クラスター」という特定の領域を重点的に体系づけて学ぶ科目群を採用

しています。経済学科では、経済総合とヒューマンエコノミーのクラスターを配して、現実に行っている経済の問題に対処する政策提言能力を高めます。経済情報システム学科は、企業経済と経済情報クラスターに分かれ、統計調査やパソコンなどを利用した実践的な情報処理技術を通して、地域経済のリーダーを育成します。国際経済学科は、貿易・国際金融と経済開発クラスターに分かれ、アジアや世界の経済の活動実体を学びながら、グローバルな経済感覚を養うことができます。そして、公共・環境経済学科では公共と環境の2つのクラスターで、地方自治体の財政や運営方法、世界諸地域の環境政策について学修し、公的機関などで活躍できる人材を目指します。

●大学生活について

経済学部で学んでいる内容を教えてください。

■大学生

3年生の春から社会保障の研究を始めました。今では、武田先生のゼミナールでの活動が主となっています。社会保障の研究への入り口は、なぜ貧困が存在しているのかという疑問でした。貧困状態にあるとどういった問題が発生するのか、そして、生活が成り立たない状況を解決するにはどうすればよいのかと考えた結果、社会保障の研究へとつながっていきました。

■先生

経済学部では各ゼミナールに所属している3年生が研究成果を発表する、プレゼンテーションの大会があります。星野さんは6名のグループのリーダーを務めていて、プレゼン大会で社会保障と貧困の問題を取り上げました。

途上国が貧困で苦しんでいるのは理解できるのですが、実は、先進国である日本にも貧困の問題があります。最近では子どもの貧困も指摘されており、星野さんのグループもそこに問題意識を持ち、解決し得る方法を社会保障制度の側面から探っています。

プレゼン大会で使用する資料は、パワーポイントを使います。資料を作成する上で最も大切にしていることは、根拠となるデータを基に資料を作ること。例えば、企業で商品開発の仕事をする際に「この商品が売れそうだ」と思っても、なぜ売れそうなのか、その根拠となるデータがなければ周囲の人々を納得させることはできません。プレゼン大会で使用する資料も同じです。ゼミナールでの学修が、将来の仕事に役立つように指導しているのです。

■大学生

11月のプレゼン大会に向けて夏休み前から準備に入り、プレゼン当日は私とゼミ仲間の2人で発表しました。力を入れたのは、日本の一般的な「衣・食・住」についてのテーマです。「食」にはどれくらいの費用が必要なのかを調べるために、実際にスーパーに行き、また「住」では場所による家賃の違いを調べたり…、フィールドワークを通してデータを集め、分析しまとめました。

■先生

中央大学は「行動する知性」という理念を掲げており、経済学部でも机上で学ぶだけではなく、実際に様々な現場に出かけることを重視しています。

星野さんのグループが取り上げた貧困の問題であれば、食事にはどの程度の費用がかかるのかといった「具体的な数字」を、現場に足を運んで調べるように指導しています。すると、資料は分かりやすく説得力もあり、社会人と比較しても遜色がないレベルに仕上がります。完成した資料は、簡単な図と説明文で構成されているように見えますが、論理的にかつ分かりやすく作るには膨大な時間を費やしているのです。結果として、星野さんのグループは、プレゼン大会優勝という栄誉に浴することとなりました。



プレゼン大会で研究成果を発表

中央大学に入学したきっかけを教えてください。

■大学生

高校生の時は、バスケットボール部に所属していました。中央大学附属高校の生徒と練習試合をする機会があり、大学のキャンパスには何度か訪れて親しみを感じていました。

経済学部を選択したという部分でお話すると、世界史が好きだったことが大きく影響しています。歴史をたどれば、貧困の問題はずっと昔からあり、世界史ではそれを宗教の側面から捉えていました。しかし、時代は流れ一般の人々にも教育が行きわたるようになると、経済の概念から貧困の発生原因が探られるようになったのです。世界史を勉強する過程で、経済学は貧困そのものを定義した初めての学問だと知り、ぜひ学んでみたいと経済学部を志望しました。

■卒業生

私は中央大学の附属高校で学んでいたので、中央大学への入学は自然の流れでした。

学部選択に関してはいろいろ検討しましたが、経営に関することから国際経済まで幅広く学べる経済学部に着かれ、中でもIT系の学問やプログラミングに興味を持っていたこともあり、最終的には経済情報システム学科に決めました。

■先生

中央大学には様々な学部があります。弁護士なら法学部、公認会計士や税理士なら商学部、文学が好きなら文学部と、進学目的や学びたいことが明確な学生が多いように思いますが、経済学部に関していえば、将来の目標がまだはっきり見えていない人が多いのかもしれないですね（笑）。しかし、私はそれでも構わないと思います。

経済学部には様々な分野の学問が学べる講義が多数開講されていますので、その中で、自分が興味を持てるものがあれば、講義やゼミナールで学びを深めていけばいいのです。その上で、将来を見据えていっても遅くはありません。

目標が分からないというのはネガティブに捉えられがちですが、決してそうではありません。例えば、様々な経験を積みながら経済学部で学ぶ中で環境や格差といった興味のあるテーマを見つけて、いかに社会貢献できるかを考えていけば十分なのです。テーマを発見すると、その後は飛躍的に成長することができます。

だから、われわれ教員は、いかに学生に“気づき”を与えられる授業を展開するかが問われていると思います。

中央大学経済学部に入學して、どのような印象を持ちましたか。



■卒業生

16のテーマと60以上のゼミナールがあって、多彩なテーマの中から選べることに驚きました。

先ほど先生もおっしゃっていましたが、同級生の中には自分の学びたいことや興味の持てることを探している学生もたくさんいたように思います。そして、目標が定まれば、それに向かって突き進んでいく。そんな意思の強い学生が多かったですね。

■大学生

私も幅広い領域が学べると驚きました。経済学は難しい学問ですが、基礎を乗り越えればよりレベルの高い授業が用意されていることが分かって、私の選択は間違っていなかったと感じました。友人の中には会計のことを学んでいる人もいましたし、文学の授業を受けるために他学部の履修をしている人もいて、どの学生も積極的に学んでいました。

■先生

中央大学の学生は、とても真面目な印象があります。「質実剛健」という言葉がぴったり当てはまるような、コツコツ頑張って着実に成果を出す学生が多いですね。中央大学が資格取得に強いといわれるのは、こうした校風が影響しているのかもしれないですね。

学内ダブルスクール制度を活用している学生もいるそうですね。

■先生

はい、経済学部 of 学生も多くが利用しています。学内には多摩学生研究棟「炎の塔」と呼ばれている3階建ての建物があり、難関の国家試験突破を目指して日々学生が勉強しています。この建物内に経理研究所があり、ここでは公認会計士の国家試験合格を目指して、中央大学OB・経理研究所OBの公認会計士がていねいに指導してくれます。それぞれの学生専用の机とロッカーが



与えられ、毎日8～23時まで利用することができます。学内にあるため通学時間はかかりませんし、大学からの補助により受講料は専門学校の半額以下で同等以上の充実した講座を受けることができます。国家試験合格に計り知れないメリットがあると思います。

■卒業生

私の周りにも公認会計士を目指している学生がいました。武田先生もおっしゃっているように強力なサポート体制がありますし、チャレンジするには最高の環境があると思います。社会人になると継続的に勉強する時間がなかなか取れません。存分に勉強できる大学の4年間に、こうした環境を利用できるのは贅沢ですね。

武田先生のゼミナールの内容を教えてください。

■先生

ゼミ生は2年生から4年生まで所属しており、各学年で13名程度、2～4年生全体では40名前後です。指導方針は「高い山は裾野が広い」です。学問の高みに達するためには、まず広範囲に学んで基礎をしっかりと身につけなければなりません。

2年生は裾野を広げる時期です。1年生で学んだ経済学関連の内容を復習という意味において、基礎的な学習を再度行います。たとえば、「経済学って何？」と、中学生や高校生に聞かれた時に学生自身が答えられるように、分かりやすく説明してもらうことを意識しています。3年生になると星野さんが言っていた学内のプレゼン大会がありますので、その準備を進めていきます。さらにもう一つ、3年生の12月には他大学を交えて3大学合同の討論会を開いています。プレゼンテーションに基づいてディスカッションを行いますが、毎回、質疑応答は白熱し、いかに大学での勉強が大事であるかを実感する場になります。プレゼン大会や討論会での経験は、社会人になってからの自信にもつながると思います。

そして、いよいよ4年生で卒業論文に取り組みます。また、プレゼン大会と討論会は3年生が主に担当するため、4年生はそこで使うパワーポイントや論文指導を任されます。武田ゼミでは日頃から実学重視の学習を行っていますが、後輩への論文指導は会社で部下を持った際の予習にもなると考えています。

ゼミナールで印象に残ったことはなんですか？

■大学生

3大学合同の討論会は、とても印象に残っています。緊張もしましたが、学内のプレゼン大会と並行してしっかりと学ぶことができたので、他大学の論文を読んでも、自分たちも負けてはいないと思えるくらいのレベルになりました。武田ゼミで教えていただいた根拠となるデータ、そして事実を提示しながら、自信を持って討論に臨むことができました。

■卒業生

2泊3日の夏合宿という行事もあります。私は3年生の夏に、プレゼン大会の追い込みをしたことが記憶に残っています。4年生の先輩から指導を受けながら資料の修正を何度も繰り返し完成させました。とても辛い数日間でしたが、振り返ってみるとよい経験だったと思います。社会人になれば、期日までに仕上げなければならないといった仕事は当たり前のようになります。その苦勞を学生時代に予習することができました。

■先生

山岸さんの時は、山梨県で合宿をしましたね。2～4年生までが参加しますが、毎年、2年生は夏休みの課題の発表、4年生は卒論の計画発表をします。そして、3年生はこの合宿で学内のプレゼン大会の準備をします。2日目の午後は自由に使える時間で、2年生や4年生はボーリングなどで楽しんでいても、3年生だけは必死で勉強しています（笑）。これは歴代のゼミ生が経験してきたことです。2年生はその姿を見て「来年は自分たちが必死にやる番だ」と思っているはずです。またその辛さを経験した4年生は「必ず完成するから頑張れ」と、3年生を励ましながら指導しています。私にとっては、とても嬉しい光景です。その辛さを経験した山岸さんのグループも、プレゼン大会で優勝という結果を残しています。

■卒業生

この合宿を一緒に乗り越えたゼミ生とは、今でもたまに会います。こうした楽しくも辛い時間を共有して、絆が深まったと思います。

■先生

武田ゼミは学生主体で運営されていますので、基本的に私は座っているだけで物事は進んでいきます（笑）。

●就職活動、仕事について

就職活動はどのように進められましたか？

■卒業生

私たちの頃は就職活動が12月に解禁になり、企業説明会に行ったり、大学主催の就職セミナーに参加するなど約4ヵ月間就職活動をしました。ものづくりに関わる仕事に就きたかった私は、精密機器や自動車、住宅メーカーなどを視野に入れていました。経済学部全体では金融業界へ就職する学生が多いのですが、私はモノを創りだしてこそお金に価値が生まれると考えていたのでメーカーを志望していました。ゼミ仲間では、公務員志望も多かったですね。10月はプレゼン大会とも重なってくる時期だったので、ゼミ室でプレゼン大会の準備をしながら企業セミナーに参加していました。



■先生

研究の合間に就職活動をしたり、昼食をとったり、専用ゼミ室を拠点に行動する学生が多いですね。サークルの部室のような雰囲気、みんな自由に活動しています。

山岸さんが言うように、ゼミ生の就職先はメーカーが多いです。経済学部全体では約3割の学生が金融・保険業界に就職しますが、メーカーもそれに次ぐくらい多いです。年によっては地方財政などを担当したいと、公務員を志望する学生もいます。社会保障は財政問題でもあるので、国や地

方の役割を勉強しているうちに地方公務員という選択肢が出てくるのでしょうか。

現在のお仕事について教えてください。

■卒業生

主に首都圏で、工業用の内視鏡の販売営業を担当しています。職場は様々な経歴をもつ先輩方ばかりで、気さくに接していただきながらとても良い環境で仕事をしています。

大学での学びが仕事で役に立っていることは？

■卒業生

弊社では新入社員に対しても、入社後すぐに即戦力としてレベルの高い働きが求められます。入社当時は、大学4年間で学び、経験してきたことを駆使して必死で乗り越えてきた感があります。ゼミナールでは、問題解決にあたり、周囲と協力する大切さを学びました。この経験は仕事でも役に立っています。また、学生時代に使いこんだ甲斐があり、パワーポイントで作った資料が分かりやすいと上司からお褒めの言葉をいただいたこともあります（笑）。

● 5年後に向けて

将来の夢や目標はありますか？

■大学生

経済学部で学んできたことを活かし、卒業後は、金融業界か不動産業界への就職を志望しています。すでに、いくつかの企業セミナーに参加しています。周囲の学生も就職活動を開始していますので、ゼミ仲間の学生とは頻繁に就職活動についての状況を話し合ったり、お互いに相談したりしています。

私の周りではメーカー志望の学生が多いですね。金融理論は社会生活の根幹を学べる学問ですが、反面、具体的に何につながるのか分かりづらい面もあるので、目に見える“物”を扱う仕事に就きたいと思うようになるのかもしれません。



■卒業生

現在は、会社の製品を売る仕事をしていますが、将来的には販売支援を目標にしています。企業全体を俯瞰して見て、安定した企業運営のために組織がより円滑に動くようにサポートする業務に就きたいと思っています。

■先生

私の研究に関して言えば、今、進めている国債の研究を本にまとめることが目標です。

学生に教える立場としては、「日本経済史」「経済入門」など比較的1年生の講義を担当することが多いので、学生に「経済学って面白い！」と興味を持ってもらえる授業をすることでしょうか。分かりやすいことも大切ですが、それ以上に“気づき”を与えられるような授業にしたいと工夫しています。

例えば、紙に「1」と「3」と両者を近づけて書いた時に、これをアルファベットの「B」と読む人もいれば、数字の「13」と読む人もいるでしょう。みなさんは「 $1 + 1 = 2$ 」と理解し、おおむね受験勉強がそうですが、答えはひとつと教えられてきたでしょう。しかし、大学、世の中、経済学も含む社会科学では唯一無二の正しい答えはなく、同じ物を見ても、ある人は「B」と読み、ある人は「13」と読むのです。こう、1年生の段階で話すと、「あっ！」と気づききっかけを与えられるのではないかと考えています。気づくことができれば、あとは学生自身が自発的に勉強していっ

てくれると思うのです。

■大学生

そうですね。私もずいぶんものの見方や考え方が変わりました。

■先生

もうひとつ言えば「 $1 + 1 = 2$ 」と書いたあとに「 $9 + 9 = ?$ 」と書いて、これは何？と問いかけます。学生たちからは、夫婦、恋人、家庭、社会など感じたままに様々な答えが出てきます。そこで、「何が正解ですか？」と尋ねるとたいていは沈黙してしまいます。この沈黙は当然のことです。つまり、私たちは唯一無二の正しい答えなどない世界に住んでいるということなのです。経済学の身近な問題に置き換えれば、消費税を10%に上げるのか、8%のままにするのか、5%に戻すのかと議論は紛糾していますが、それでも自分なりの答えを見つけなければなりません。私たちの住んでいる世界に唯一無二の正しい答えはないということに気づくと、自分なりの答えを見つけるために本を読んだり、人の話に耳を傾けたり、積極的に学ぶようになるでしょう。まずは、身近なところから問題意識を持って考え、行動し、それを大学の学びやゼミナールでの研究につなげてほしいですね。

●高校生へのアドバイス

高校生へアドバイスをいただけますか。

■卒業生

新しいことにチャレンジしようと、高校からバドミントン部に入部して3年間活動しました。区内ベスト8になるほどに上達しました。私の経験から言えば、どんなことでも、興味を持ったことには挑戦してほしいですね。そこで得た経験は、必ずその後の人生において財産となるはずです。

■大学生

高校1年生の頃は、何を勉強しているのか、何のために勉強しているのかが分かっていませんでした。私のように分からないと悩んでいる人は、世界の歴史の勉強をするのがよいかも知れません。今の世界がどういう経緯で成り立っているのかを少しでも理解できれば、大学での学びが楽しくなるのではないのでしょうか。私は世界史の勉強を通じて、ある1つの出来事は様々な事象が積み重なって発生していることを知りました。例えば、戦争の原因は政治学的に見れば民族の対立ですが、その背景には土地が足りないために奪い合いになっているなどの理由があります。高校生の頃に得た知識は、大学での様々な学びの土台になります。幅広い知識を積んでおけば講義の内容もより深く理解できます。



■先生

進路選択にあたっては、自分が何をしたいのかをじっくり考える時間があるとよいでしょうね。私は高校生の時に剣道ばかりやっていました。もちろんそれは貴重な経験ですが、一方で、もっと勉強できたのではという後悔もあります。高校時代に頑張って勉強してきた周囲の学生と比べると、知識量の差を感じることがありました。自分の好きなことをする高校生活もよいでしょうが、自分の将来について考え、そのための勉強をすることも大切です。

高校の勉強が大学の学びとどうつながるのでしょうか。

■先生

詰め込み教育は悪いという風潮もありますが、詰め込んでいなければ大学の学びが先に進みません。私は日本経済史を担当しており「壺田永年私財法」や「太閤検地」の話をしますが、その内容を知らなければ「なんの話ですか？」となってしまいます。高校の授業や大学受験で知識を蓄えておくことは必要ですよ。

しっかり勉強してください（笑）。

最後に、経済学部魅力を教えてください。

■先生

経済学が扱う対象は私たちの日常そのもので、すべてが研究対象になります。今、経済学を学んでみたいと思っている高校生はもちろん、まだ将来の目標が定まっていない高校生も、経済の仕組みを学ぶことは社会に出てどんな場面においても役に立ちます。

中央大学の経済学部は、これからの可能性を秘めた学生を成長させる力を持った講師陣、多彩な学びを可能にしたカリキュラムを揃えてみなさんを待っています。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

武田勝先生

中央大学経済学部 准教授

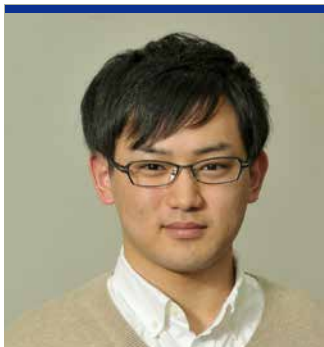
福島県立湯本高等学校出身。中央大学経済学部卒業。中央大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程修了、中央大学経済学部助手、同助教授を経て現職。



■卒業生

山岸和樹さん

オリンパス株式会社 科学国内営業本部 東京営業 2 チーム (2016 年取材当時) 私立中央大学杉並高等学校出身。中央大学経済学部経済情報システム学科卒業。オリンパス株式会社に勤務。現在は、営業職として工業用の内視鏡の販売を担当。将来は、安定した企業運営のために組織がより円滑に動くようにサポートする販売支援の業務に就きたいという。



■大学生

星野智さん

中央大学経済学部経済学科 4 年生 (2016 年取材当時)

東京都立日野台高等学校出身。武田ゼミではグループリーダーを務めるなど、ゼミナール全体を牽引する中心的な存在。現在は、金融、不動産業界を目指し、就職活動に臨んでいる。